JADECOM-NDC 研修センター

特定ケア看護師の挑戦

特定ケア看護師としての現在の活動，そしてこれから

東京北医療センター　佐々木知子

青葉の美しい季節となりました．みなさまいかがお過ごしでしょうか？ 今月担当する東京北医療センター所属NDC５期生 佐々木知子です．

私の所属する東京北医療センターは，東京都北区の緑豊かな高台にある32診療科351床，職員数は750名を超える地域医療支援病院です．緑豊かで青葉がとってもきれいなことから，葉っぱの妖精「あおばねくん」をマスコットに，近隣の診療所やクリニック（かかりつけ医）と連携し，かかりつけ医で対応しきれない治療や検査を担うことで，地域の患者さんの健康を守っています．

私はNDC研修センターでの研修修了後，現在当院で２人目のNDCとして臨床研修に取り組んでいます．当院は2021年度ICU４→８床，HCU８→12床へ増床しました．私の研修は，脳神経外科，循環器内科，外科，救急外来と放射線科をローテーションし，実際に医療者と患者さんの両側面でのニーズを把握することから始めました．現在は主に医局員の人数が少なく，手術中に医師が不在になってしまう脳神経外科で活動しています．

脳神経外科では，超急性期から急性期の対応，退院支援まで幅広い視野と柔軟性，なによりチームワークが必要とされます．NDCの役割のひとつとして，緊急手術中に入院患者さんの対応ができるよう，医師からの指導を受けています．21区分38の特定行為を用い，発熱や電解質異常，栄養管理などに取り組む場面も多くあります．自信をもって行えることはまだ多くはありませんが，些細な疑問も医師や薬剤師，臨床検査技師，放射線技師などに相談しながら，こまめに確認し取り組んでいます．反復練習の中で，総合診療科をはじめ他科の先生方にご指導いただく場面も多く，さまざまな方々に支えられ日々の臨床研修を過ごしています．

また突発的な発症で戸惑いを隠せない患者さんや家族への介入も重要な役割のひとつになっています．患者さんや家族を取り巻く全ての職種による，多職種協働の重要性を改めて実感しています．それぞれの職種の特性を理解し，適切な情報収集と共有ができることで，私自身が多職種との接着剤の役目を果たせるのではと思っています．超急性期治療中から退院後の生活をイメージし多職種連携をはかることで，個々に合わせたケアの提供ができるのではないかと考えています．

「医師に連絡するほどでもないけれど…」といった日頃の疑問や相談などを気軽にできるという点で，看護師をはじめリハビリテーション担当セラピスト，MSW，薬剤師など多職種から頻繁に声がかかります．答えを持ち合わせていないこともありますが，一緒に考え答えに近づくことは私にもできると思っています．一緒に考えるチャンスは，私にとっての大きな学びの場になっていると実感しています．

医師のタスクシフトの一環から誕生した特定行為研修制度ですが，医師不在時の指示受けや気軽に相談できる役割を心掛けることで，タイムリーな介入ができるようになります．医師の指導の元，看護師にとって分かりやすい指示へ

雪の残る道を患者さん宅へ向かいます

東京北医療センターから見えた虹

訪問診療先のグループホームにて

代行入力することがエラーの回避につながるなど，看護師にとってプラスに働きかけることができ，結果的に看護師にとってのタスクシェアも得られると思っています.

2022年１月17日から揖斐郡北西部地域医療センター 久瀬診療所で２週間，地域研修を行いました．数えきれない学びの中でも，自然豊かで雪深い中行われるICTをフル活用した訪問診療を体験し，自施設で取り組む中では気づかなかった地域における特定ケア看護師の活動の可能性を感じられたように思います．超高齢化と人口減少の過渡期にあるといわれる日本において，久瀬診療所も例外ではなくまさに真っただ中にあると感じました.「患者の日々の生活に寄り添い，その人らしい生活をお過ごしいただくためのサポーターとしての役目だけでなく，予防医学を用い，健康で過ごせる時間を少しでも長くできるよう働きかけることで，介護年齢が現状より上昇に転じ，要介護者の絶対数を減少させることにつながる」と指導を受けました．実際に地域研修を行ったことで，より明確に理解できたように感じています．久瀬診療所での２週間，スタッフのみなさまの笑顔と厚いご指導で地域でのNDCとしての活動のイメージを持つことができ，いつかNDCとして地域に貢献できる人材になりたいというもうひとつの目標を持つことができました.

たくさんの方々に支えていただき，一歩一歩学び多い日々を過ごしています．私も誰かの支えになれるように，これまで以上にタイムリーで寄り添ったケアを提供できるよう，自己研鑽に励みたいと思います.